

清武町文化財調査報告書 第7集

NUMERIKAWA  
滑川第1遺跡-2-

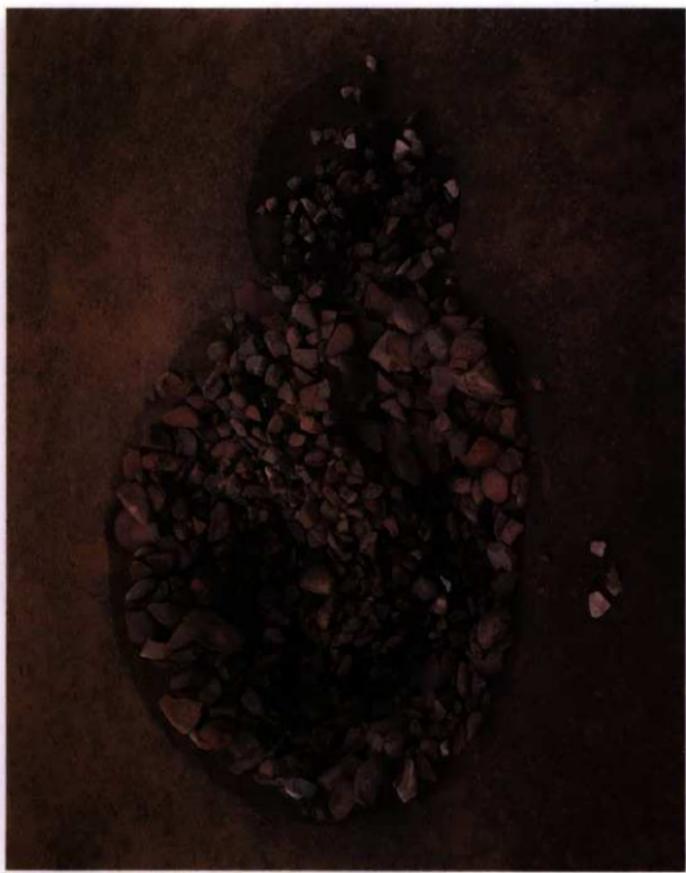
滑川第2遺跡-2-

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査概要報告書

1999

清武町教育委員会

滑川第1遺跡 S I -38



## 序

本書は、清武町船引地区で進められている県営農地保全事業に伴い、平成10年度事業地で実施した滑川第1・第2遺跡の発掘調査概要報告書です。

調査の結果、今から2万年ほど遡ると思われる旧石器時代の礫群をはじめ、直径2.1mを越える縄文時代早期の巨大な集石造構や弥生時代と思われる竪穴式住居など幅広い時代の多種多様な遺構や遺物を確認することができました。これらの資料は、この地で永きに渡り生活してきた先人たちの生きた証でありますので、慎重に調査し充分に検討したうえで後世に伝えていきたいと思います。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり、多大な御協力をいただきました船引土地改良区をはじめとする地元の皆様に対し、心より厚く御礼申し上げます。

平成11年3月

清武町教育委員会

教育長 湯 地 敏 郎

## 例　　言

1. 本書は、県営農地保全事業（船引地区）に伴う、滑川第1・第2遺跡の発掘調査概要報告書である。

2. 調査組織は以下のとおりである。

調査主体 清武町教育委員会

事務局

教育長 湯地敏郎

教育次長 清俊郎

社会教育課長 戸高輝利

同課長補佐兼文化係長 落合兼雄

社会教育課主査 川越健

調査員

社会教育課主任 伊東但

社会教育課主事 井田篤

社会教育課嘱託 松原一哉

3. 図面の作成は井田・松原他、実測補助員（

）が行い、一部を（有）ジパング・サーベイに委託した。

4. 遺物、図面の整理は、清武町文化財管理事務所において、井田・松原他整理作業員（  
）が行った。

5. 掘団の実測、拓本、トレースは井田、松原、沼口が行った。

6. 本書に使用した写真は、伊東、井田、松原が撮影し、空中写真については（株）スカイサー  
ペイに委託した。

7. 放射性炭素年代測定などの自然科学分析は（株）古環境研究所に委託した。

8. 本書に使用したレベルは海拔絶対高である。

9. 本書に使用した記号は次のとおりである。（遺構番号は各遺跡ごと）

S I : 集石遺構 S C : 土坑 S A : 竪穴式住居 S E : 溝

10. 基本土層や遺構埋土の色調については、「新版 標準土色帖」（1997年後期版）の土色に準拠  
した。

11. 遺構配置図及び遺物分布図中の等高線は、いずれも滑川第1・第2遺跡それぞれの基本土層  
第4層上面におけるものである。

12. 本書の編集・執筆は第1・3章を井田が第2章を松原が行い、文責は目次に示した。

## 目 次

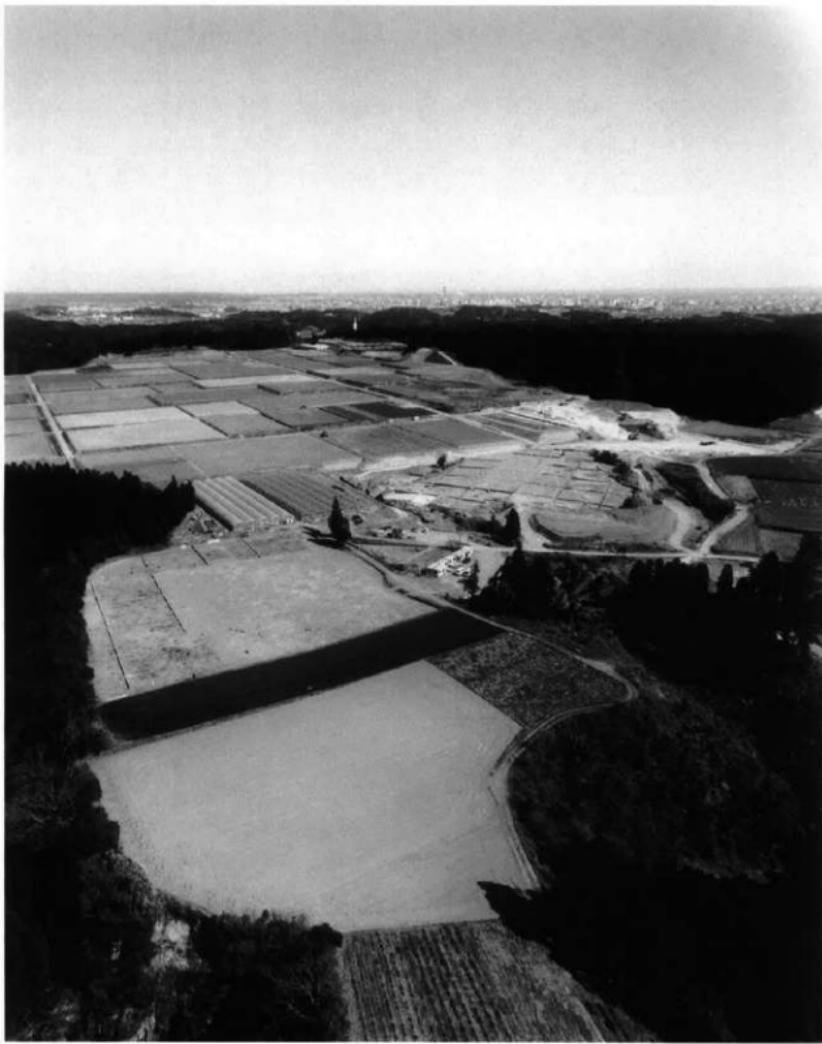
第1章 はじめに	(井田)	2
第1節 調査にいたる経緯		2
第2節 遺跡の位置と環境		2
第2章 滑川第1遺跡	(松原)	5
第1節 調査の概要		5
第2節 集石遺構		6
第3節 竪穴式住居		9
第4節 土坑		10
第5節 出土遺物		12
第6節 まとめ		12
第3章 滑川第2遺跡	(井田)	14
第1節 調査の概要		15
第2節 旧石器時代の調査		16
第3節 集石遺構		17
第4節 土坑		19
第5節 竪穴式住居		20
第6節 出土遺物		20
第7節 まとめ		20
調査抄録		
滑川第1・第2遺跡		25

## 挿 図 目 次

第1図位置図	(1/50000).....	3
第2図滑川第1・第2・第3遺跡周辺地形図(1/2000).....	4	
第3図滑川第1遺跡基本土層図(1/30).....	5	
第4図滑川第1遺跡SI-27実測図(1/30).....	6	
第5図滑川第1遺跡SI-28実測図(1/30).....	7	
第6図滑川第1遺跡遺構配置図1(1/1000).....	8	
第7図滑川第1遺跡遺構配置図2(1/1000).....	9	
第8図滑川第1遺跡SC-74実測図(1/40).....	10	
第9図滑川第1遺跡SC-48・49実測図(1/40).....	10	
第10図滑川第1遺跡SC-94~99・157・158実測図(1/40).....	11	
第11図滑川第1遺跡出土遺物実測図(1/2).....	13	
第12図滑川第2遺跡基本土層図(1/30).....	15	
第13図滑川第2遺跡遺物分布図1(1/250).....	16	
第14図滑川第2遺跡遺構配置図1(1/1000).....	17	
第15図滑川第2遺跡遺構配置図2(1/1000).....	19	
第16図滑川第2遺跡遺物分布図2(1/2000).....	20	
第17図滑川第2遺跡遺物分布図3(1/2000).....	20	
第18図滑川第2遺跡出土遺物実測図1(1/2).....	21	
第19図滑川第2遺跡出土遺物実測図2(1/2).....	22	

## 図 版 目 次

図版1滑川第1遺跡・第2遺跡遠景.....	1
図版2滑川第1遺跡全景.....	5
図版3滑川第1遺跡B-14区疊群.....	6
図版4滑川第1遺跡SI-35.....	6
図版5滑川第1遺跡SI-27.....	6
図版6滑川第1遺跡SI-27.....	6
図版7滑川第1遺跡SI-28.....	7
図版8滑川第1遺跡SI-28.....	7
図版9滑川第1遺跡SI-21.....	8
図版10滑川第1遺跡SI-26.....	8
図版11滑川第1遺跡SA-1.....	9
図版12滑川第1遺跡SA-2.....	9
図版13滑川第1遺跡SC-74.....	10
図版14滑川第1遺跡SC-48・49.....	10
図版15滑川第1遺跡SC-94~99・157・158.....	11
図版16滑川第1遺跡出土遺物.....	14
図版17滑川第2遺跡全景.....	15
図版18滑川第2遺跡旧石器時代の疊群.....	16
図版19滑川第2遺跡SI-42.....	16
図版20滑川第2遺跡SI-9.....	17
図版21滑川第2遺跡SI-19.....	17
図版22滑川第2遺跡A群.....	18
図版23滑川第2遺跡SI-29~31.....	18
図版24滑川第2遺跡SI-27.....	18
図版25滑川第2遺跡SC-23.....	19
図版26滑川第2遺跡SA-1.....	19
図版27滑川第2遺跡出土遺物1.....	23
図版28滑川第2遺跡出土遺物2.....	24



図版1 滑川第1遺跡・第2遺跡遠景（南より）

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

平成7年度より行われている清武町船引地区の県営農地保全事業に伴い、平成10年度事業区の一部に滑川第1遺跡・第2遺跡が含まれることが確認された。遺跡の取り扱いについて宮崎県中部農林振興局と協議したところ、耕作土の確保等の事業設計上の理由により、両遺跡の大部分が削平されることとなったため、影響を受ける範囲について発掘調査を行い記録保存することとなった。

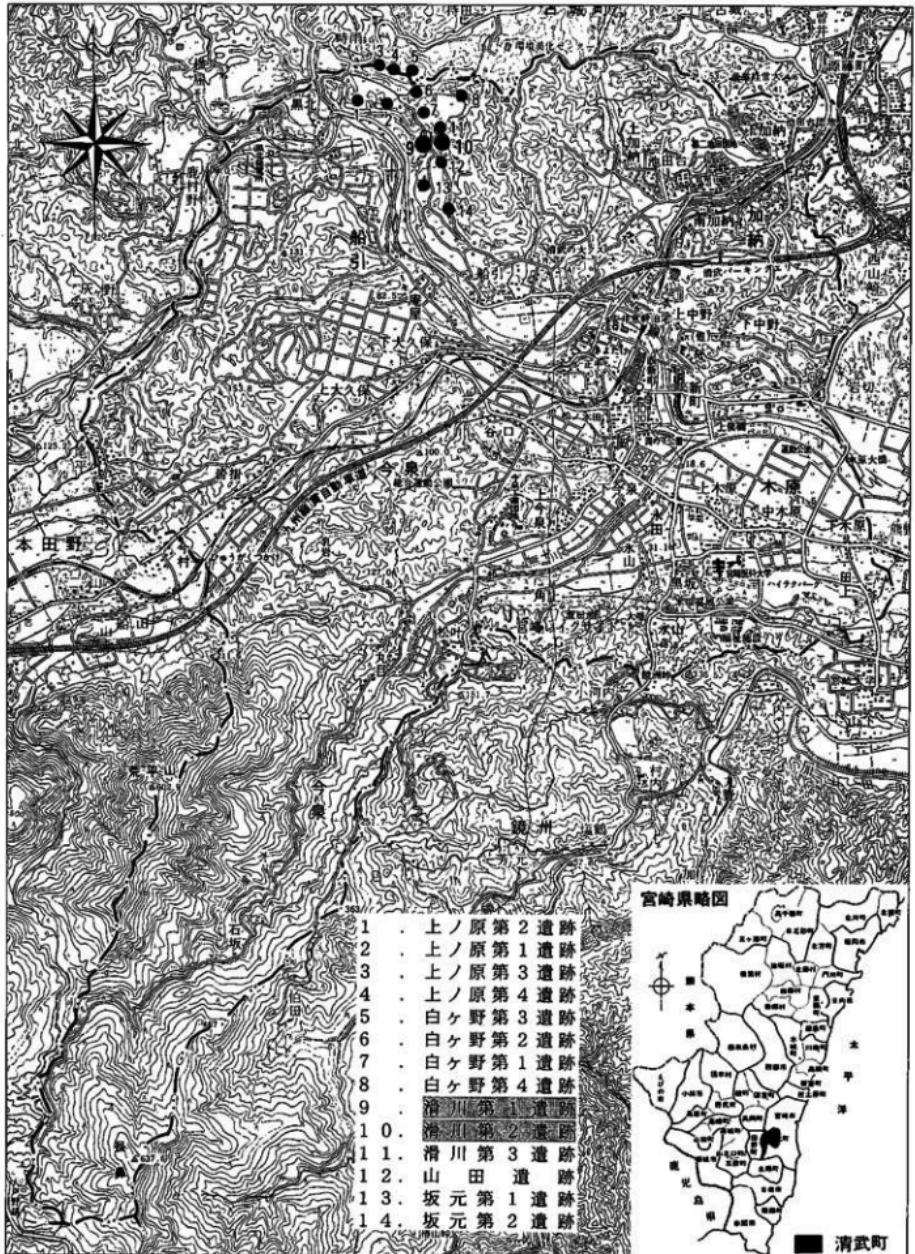
調査は宮崎県中部農林振興局の委託を受け清武町教育委員会が実施し、期間は平成10年4月15日から平成11年3月31日まで、調査面積は滑川第1遺跡が約9300m<sup>2</sup>、滑川第2遺跡が約9600m<sup>2</sup>である。

## 第2節 立地と環境

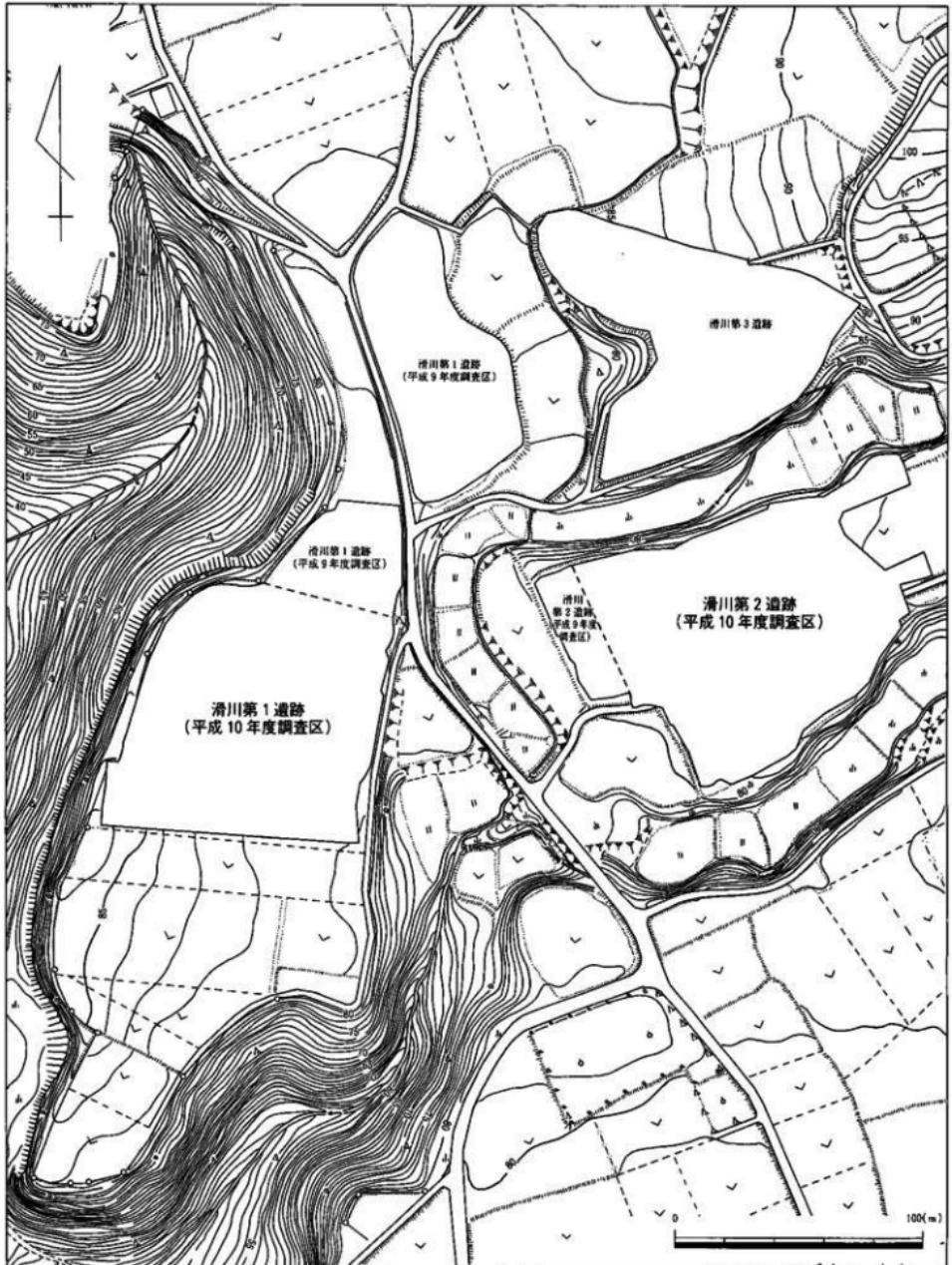
清武町は県央、宮崎平野の南西部に位置する。町内に流れる清武川及びその支流水無川の川沿いには河岸段丘が発達しており、町内の遺跡の大半は、この段丘上平坦面に形成されている。

滑川第1・2遺跡は清武町の北西部船引地区に所在し、清武川左岸標高80m～85mのシラス台地上に位置する。両遺跡付近は複雑な小谷が入り込んでおり、それぞれの遺跡は独立した平坦面上に立地している。

近辺には県営農地保全事業や東九州自動車道建設に伴い宮崎県教育委員会主体によって調査が行われ、縄文時代後期及び古墳時代中期の竪穴式住居や中世から近世にかけての掘立柱建物跡などが検出された上ノ原第1・2・3・4遺跡、縄文時代早期の集石遺構やカマドを有する竪穴式住居が検出され、当台地上で営まれた古代の小規模集落の存在が確認された白ヶ野第2・3遺跡、また平成7年度より行われている清武町船引地区の県営農地保全事業に伴い清武町教育委員会によって調査が行われ、旧石器時代の剥片や縄文時代早期の装身具などが出土している白ヶ野第1・第4遺跡、台地の尾根上に並ぶ陥し穴状遺構などが検出された滑川第3遺跡、また今後の調査が予想される山田遺跡、坂元第1・第2遺跡等が所在する。これら近年の複数の大規模開発事業に伴う広大な面積の発掘調査によって当台地上における旧石器時代から近世に渡る多くの考古資料が得られている。



第1図 位置図 (1/50000)



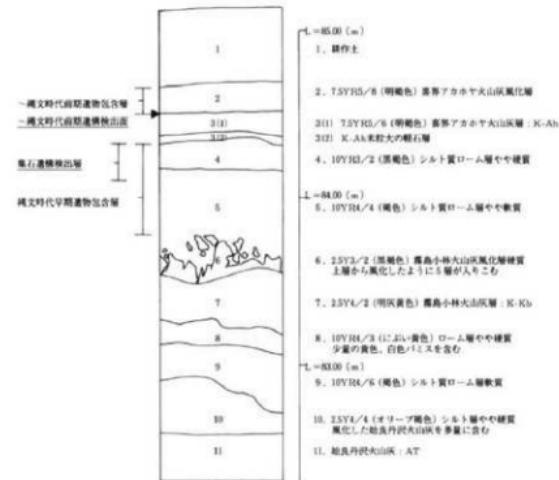
第2図 滑川第1・第2・第3遺跡周辺地形図（1/2000）

## 第2章 滑川第1遺跡

### 第1節 調査の概要

調査は重機による第1層耕作土の剥ぎ取りから行った。耕作による削平で部分的に第4層及び第5層が露出していたが、第2層の残りは概ね良好で、これを人力によつて掘り下げながら遺物の取り上げを行ひ、第3層（アカホヤ火山灰層）上面で縄文時代前期以降の遺構検出を行つた。

その後、第3層を重機で除去し、縄文時代早期遺物包含層である第4層・第5層を人力で掘り下げつつ遺物の取り上げ及び遺構の検出に努めた。集石遺構は主に第4層上位から第5層中位の範囲で見つかっている。



第3図 滑川第1遺跡基本土層図 (1/30)



図版2 滑川第1遺跡全景

## 第2節 集石遺構

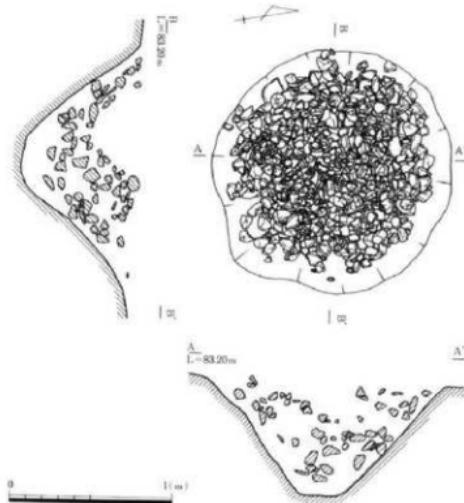
集石遺構は第4層・第5層で検出した縄文時代早期のものと、第3層上面で検出された同時代前期以降と思われるものとが見つかっている。早期の集石遺構は16基確認され、分布範囲は調査区中央部の窪池から緩斜面を上った西端部に集中している。これらの集石遺構は、掘り込み、配石と共に持つもの6基、掘り込みのみを持つもの9基、どちらも持たないもの1基が検出されている。掘り込みの形状は、断面形がすり鉢状で、平面プランは概ね円形であり、検出面での直径が1m前後のものが主流を占めるが、中には直径が2.1mを測るもの（巻頭カラーS I-38）もある。集石によって掘り込み内に礫が密に充填されているもの（第4図S I-27など）と、さほど密ではなく埋土内の上位に浮いた状態にあるもの（第5図S I-28など）とがある。



図版3 滑川第1遺跡B-14区塊群



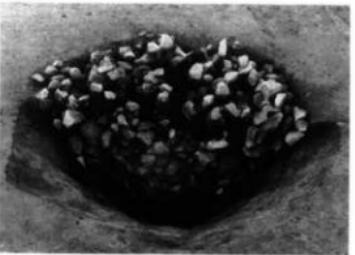
図版4 滑川第1遺跡SI-35



第4図 滑川第1遺跡SI-27実測図 (1/30)

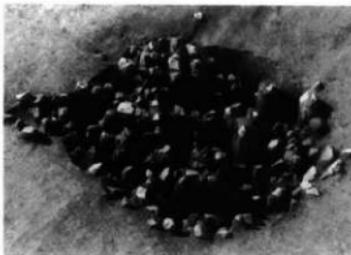


図版5 滑川第1遺跡SI-27

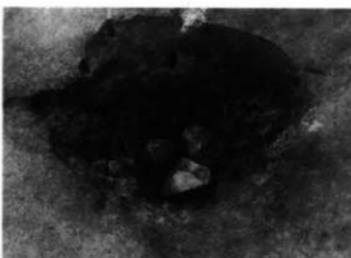


図版6 滑川第1遺跡SI-27

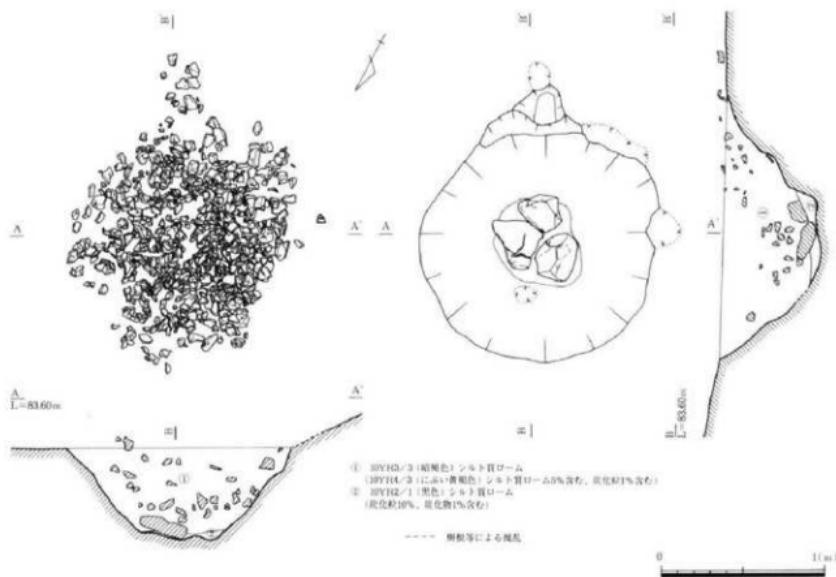
SI-38では使用時の形態のままをとどめる拳大から人頭大の円礫もしくは亜円礫が掘り込み内の床面から壁面にかけて密着された状態で充填されており、廃棄もしくは流れ込んだと思われる角礫や亜角礫は、埋土内に浮いた状態のものと部分的に密集した状態のものが見られた。掘り込みの埋土は、概ね炭化物ないし炭化粒を含む10YR3/3(暗褐色)シルト質ロームに第5層がブロック状に入り込んだものであるが、掘り込み床面に近くなるに従い炭化物の含まれる量も多くなり粘性も強くなる傾向がある。配石は掘り込みの底面に人頭大の扁平な川原石を1~3個敷いたものが確認されている。これらの配石は底面も含めてほぼ全面に被熱による赤変化がみられ、また掘り込み床面との間に炭化物を多量に含む粘性のある埋土の堆積がみられる。この集石群のなかで注目されるのは数基の大型の集石遺構(直径1~2m前後のもの)の周辺に小型の集石遺構(同径50cm前後)が有機的な関



図版7 滑川第1遺跡SI-28



図版8 滑川第1遺跡SI-28



第5図 滑川第1遺跡SI-28実測図(1/30)

連を伺わせるように数基存在する事である。なかには構築時期に新旧関係を持つものもあり、これらの集石遺構間の関係を考えるうえでの参考資料になる。大型の集石遺構と小型の集石遺構とのこのような関係は、平成8年度調査の白ヶ野第1・4遺跡、同9年度調査の滑川第1・3遺跡でも確認されている。

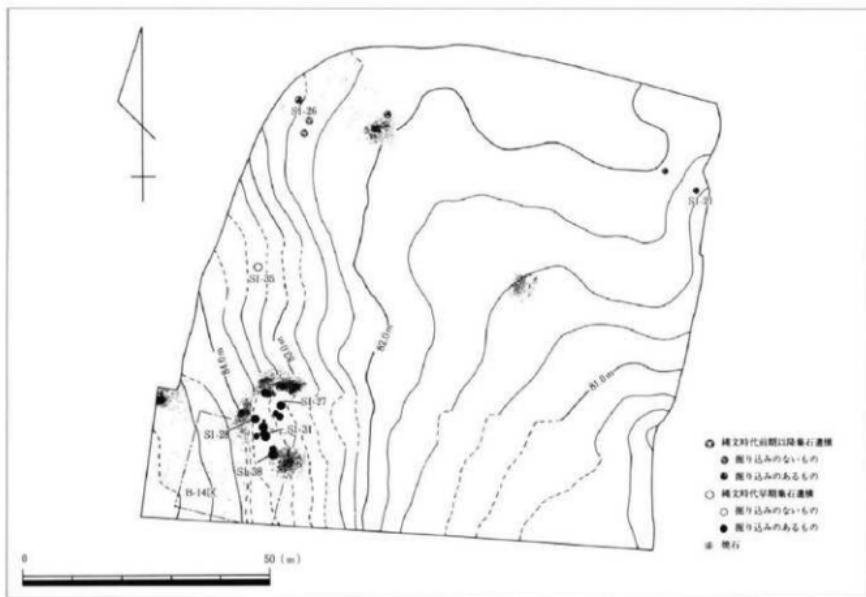
前期以降と思われる集石遺構は、掘り込みを持つものが4基、持たないものが2基検出され、いずれも配石は確認されなかった。掘り込みを持つ集石遺構の埋土には概ね多量の炭化物が含まれていたが疊の集積状態はいずれもさほど密ではなかった。また第3層を掘り抜いた掘り込みを持つSI-21(図版9)からは轟式の土器が出土している。県内における同時期の集石遺構の検出例は数少なく貴重な参考資料となる。



図版9 滑川第1遺跡SI-21



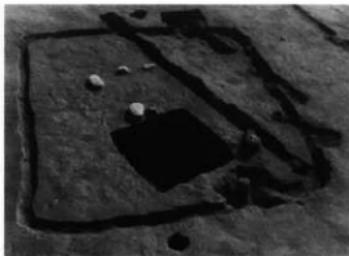
図版10 滑川第1遺跡SI-26



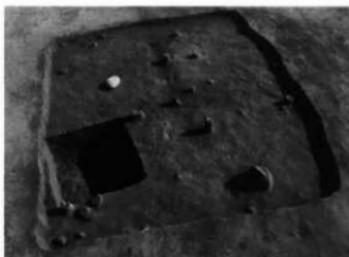
第6図 滑川第1遺跡遺構配置図1 (1/1000)

### 第3節 竪穴式住居

第3層上面において平面プランが隅丸方形の竪穴式住居が2軒検出された。SA-1は1辺が約4mの隅丸方形で、壁際に溝が廻る壁溝を有する。SA-2は同じく1辺が約4mを測る隅丸方形で検出面から約15cmの深さが残されていた。SA-1・SA-2共に掘り抜いた地山土を築き固めた張り床が施されており、床面の上には1~3個の石皿が置かれていた。その他の炉跡等の屋内施設は認められず、柱穴も検出されなかつた。また、出土遺物のはほとんどが埋土中のものであり、時期は不明である。



図版11 滑川第1遺跡SA-1



図版12 滑川第1遺跡SA-2

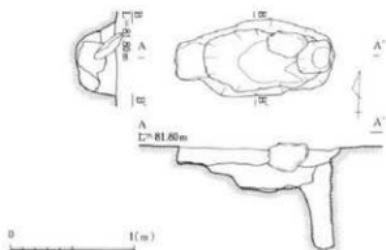


第7図 滑川第1遺跡遺構配置図2 (1/1000)

## 第4節 土 坑

第3層上面において端部にピットを有する土坑178基が検出された。これらの土坑は、ピットを有する土坑が単体で検出されるもの、2～3基の土坑が繋がって検出されるもの、複数（5～7基）の土坑が繋がって検出されるもの、の3つの検出状況に分けることが出来る。単体で存在する土坑は、平面プランが円形や方形、不定形のものが少數みられたが、概ね検出面での長径が1.5m、短径が0.5mほどの長楕円形を呈し検出面から0.3mほどの深さで平坦に処理された床面を持ち、その端部には直径が0.3mほど、深さが0.5mほどのピットを有するものがほとんどであった。土坑内部のピットには棒状のものが立てられていた可能性が考えられるが、土坑と内部ピットとの構築時期の新旧関係は認められず、構築の過程としてはおそらく、土坑を掘りあげた後その床面からさらにピットを掘り下げ、棒状のものを立てかけたものと思われる。なかには掘りあげたピットに棒状のものを立てた後さらに土坑の床面を掘り下げたと思われる形跡が認められるもの（第8図SC-74など）もあった。

2～3基の土坑が繋がって検出されるものは、単体で検出される土坑が繋がるもので、棒状に延びるもの、L字型を呈するもの、T字型を呈するもの（第9図SC-48・49など）、共有する1つのピットを中心に「く」の字型を呈するものなどがみられる。土坑が複数繋がるもの（第10図SC-94～SC-99・157・158など）は2～3基が繋がるものをさらに拡充させたもので不定形に展開される。土坑の埋土は、第3層・第4層のブロックを含む10YR 4/6（にぶい黄褐色）シ



第8図 滑川第1遺跡SC-74実測図（1/40）



図版13 滑川第1遺跡SC-74



第9図 滑川第1遺跡SC-48・49実測図（1/40）

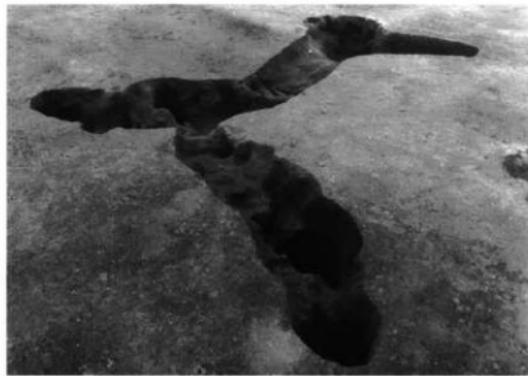


図版14 滑川第1遺跡SC-48・49

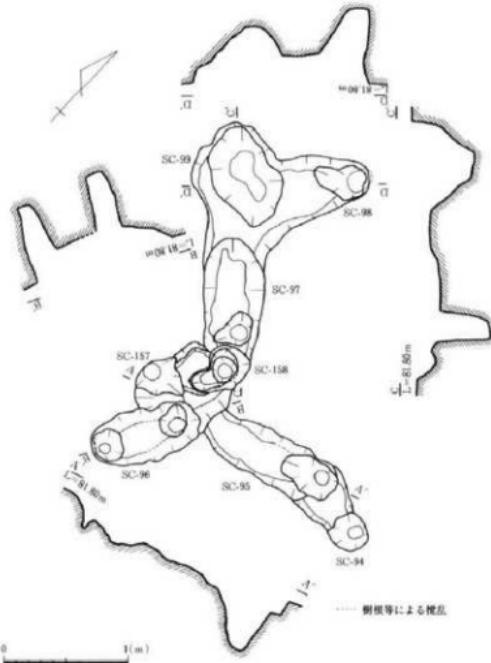
ルト質ロームと、10YR 4/3（褐色）シルト質ロームの混土が単一層として入り込んでいるものがほとんどであった。2~3基あるいは複数が繋がるものも単一の土層で埋まっており、土層からは構築時期の新旧関係は確定できなかった。これら土坑からは土師器片が出土しているが、いずれも埋土中のものであり供伴関係は認められなかった。このタイプの土坑は平成8年度調査の白ヶ野第1遺跡・同9年度調査の滑川第1遺跡でも検出されているが、時期、用途共に依然不明であり今後の検討課題である。

また、円形あるいは長楕円形の平面形から斜めに1m程度掘り下げ、壁面に被熱の影響によると思われる焼土が見られた土坑が2基検出されている。これら土坑は埋土から推測して上述の土坑と同時期のものと思われるが用途は不明である。

他に、埋土中から縄文時代後期から晩期のものと思われる土器が出土している、第3層に近い埋土を持ち平面プランが長径1.1m×短径0.9mの楕円形の土坑が検出されている。



図版15 滑川第1遺跡SC-94~99・157・158



第10図 滑川第1遺跡SC-94~99・157・158実測図 (1/40)

## 第5節 出土遺物

出土遺物として第4層・第5層中から縄文時代早期の貝殻文系円筒土器、手向山式土器、天道ヶ尾式土器、平椿式土器、塞ノ神式土器などが出土している。第3層を挟んで第2層中より同時代前期の轟B式土器、曾畠式土器、中期の里木式土器（包含層から破片1点のみ）、後期の綾式土器、北久根山式土器などが出土している。石器類では第2・4・5層中から石鎌、石匙、磨石、石皿、磨製石斧などが出土している。又、第2層中から姫島産黒曜石の石核（重さ約0.5kg）が出土している。

## 第6節 まとめ

滑川第1遺跡では、第3層を挟んで上下に2つの遺物包含層を確認しており、このうち第4層・第5層で検出された総数16基に及ぶ縄文時代早期の集石遺構に幾つかの注目すべき現象が見られる。第1に、検出面での掘り込みプランの径が1mを越える大型の集石遺構1基に対し、それに付随するように数基の小型の集石遺構がその周辺に存在することである。特に最大の直径を持つS I-38やそれに次ぐ大きさのS I-31では、近接する小型の集石遺構と構築時期に新旧関係がみられ、共に小型のものが大型のものよりも後に構築されている。小型の集石遺構の埋土に大型のものに比してより多くの炭化物を含む黒色土が入り込んでいる傾向がみられる。第2に、掘り込みを持つ各集石遺構に充填されている礫の密度に差が見られることである。これは近接する同程度の規模のものにもみられ、用途や機能的な違いの可能性も考えられる。これら集石遺構群の掘り込み検出面の上位には10~15cm程の堆積幅で、赤変した焼礫が広範囲に散在しており、特に掘り込み内に入っている礫の密度が薄い集石遺構との関連性を考える必要性がある。これら近接し、時期差もさほどないと推測される集石遺構群内の各集石遺構に見られる形態等の違いが何に起因するのか、個々の集石遺構の詳細な観察を通して今後検討していきたい。

第3層上面では、縄文時代前期以降の集石遺構、竪穴式住居、端部にピットを有するタイプの土坑などが検出されている。このうち注目したいのは178基が確認された端部にピットを有するタイプの土坑である。特に2基から複数繋がって検出されたものについて、いずれも埋土に明確な構築時期の新旧関係が認められなかった。このことは、繋がる複数が同時に掘られていたか、あるいは1つの土坑から拡張されていった可能性が考えられるが、繋がる土坑間で床面の高さが異なるものが多くあることも考慮すると、同時に使用されていたのかは不明である。これらの土坑の用途として、立てかけた棒状のものに簡易な覆いをかけ、平坦な床に何らかの食物を置いた貯蔵的機能を持った土坑であった可能性が考えられるが、土坑間の位置に規則性や方向性が認められないことも含め不明な点が多く、同じ様なタイプの土坑が検出されている周辺遺跡も含めた詳細な検討を行う必要がある。



第11図 滑川第1遺跡出土遺物実測図（1／2）



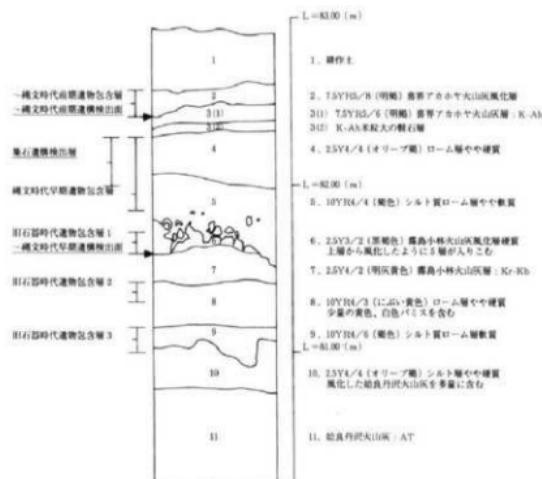
図版16 滑川第1遺跡出土遺物

# 第3章 滑川第2遺跡

## 第1節 調査の概要

調査はまず重機による第1層耕作土の剥ぎ取り作業から行い、次に縄文時代前期までの遺物包含層である第2層を、遺物の取り上げ作業を行なながら掘り下げ、第3層（アカホヤ火山灰層）上面において遺構の検出を行った。確認された竪穴式住居や土坑などの調査終了後第3層を除去し、その後第4層から第7層（霧島小林火山灰層）上面までは遺物の取り上げ作業と集石遺構や土坑等の検出・調査を行いながら掘り下げ作業を進めていった。第7層上面では縄文時代早期の遺構の検出を行い、確認された陥穴状遺構や土坑の調査をおこなった。

また平成10年度の滑川第2遺跡の調査において旧石器時代の遺構や遺物が確認されていたため、広がりの考えられる台地の先端部において旧石器時代の調査を行った。



第12図 滑川第2遺跡基本土層図（1／30）



図版17 滑川第2遺跡全景

## 第2節 旧石器時代の調査

平成10年度の調査に続き今回の調査でも3つの遺物包含層が確認された。第1・第2遺物包含層からは頁岩の剥片が数点検出され、第3遺物包含層からはナイフ形石器（石材は頁岩と砂岩）、三棱尖頭器（石材は頁岩）、剥片、黒曜石のチップ、礫群（図版18）などが検出された。礫群は2m×2.5mの範囲で集中しており、礫は赤変した円礫もしくは亜円礫（いずれも砂岩）がほとんどで炭化物は見られなかった。

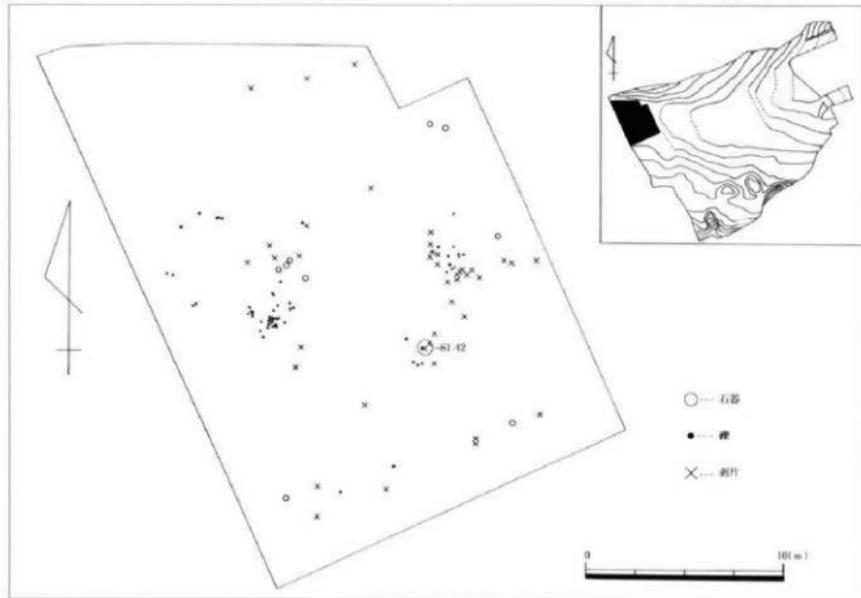
また第7層中位からは、被熱したせいか赤変してかなり脆くなった状態の礫（宮崎層群の砂岩）が0.5m×0.6mの範囲に集積したSI-42（図版19）が検出された。滑川第3遺跡でも第7層中位から集石遺構が検出されており、霧島小林軽石降下時の生活を伺い知るうえで貴重な資料となろう。



図版18 滑川第2遺跡旧石器時代の礫群



図版19 滑川第2遺跡SI-42



第13図 滑川第2遺跡遺物分布図1〔旧石器時代第3遺物包含層〕(1/250)

### 第3節 集石遺構

滑川第2遺跡では、検出面や検出状況が異なる43基の集石遺構が確認された。

まず、第4層上位では調査区西南の台地の先端部で、赤変した角礫が1m前後の範囲に数10個集積するタイプの集石遺構が12基検出された。〔SI-9(図版20)など〕いずれも掘り込みは持たず炭化物も見られず、その形態や出土状況からみて廃棄礫もしくは準備礫の可能性が高いと思われる。

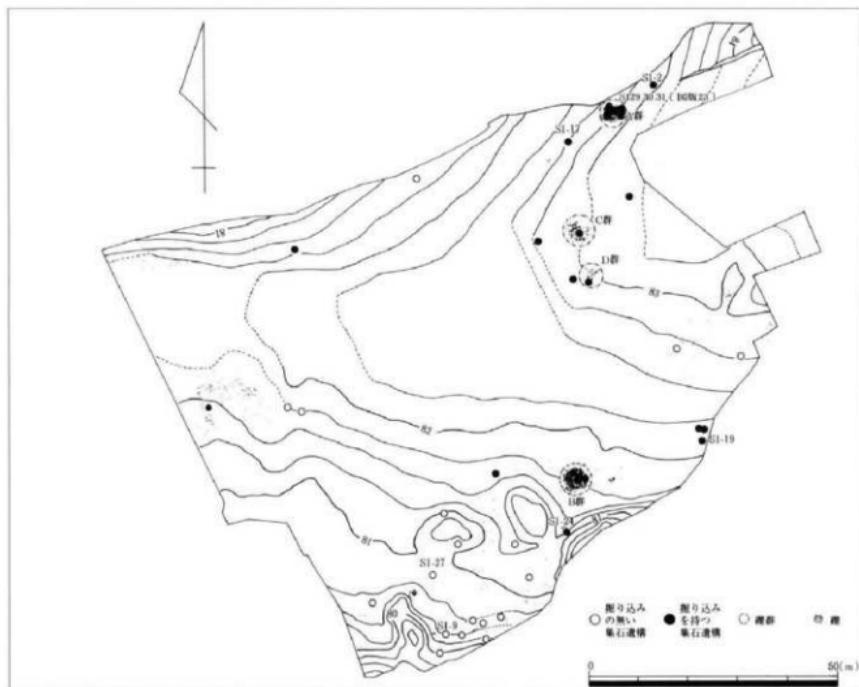
第4層中位から第5層上位では、12基の集石遺構が単体で検出された。掘り込みを持ち埋土に炭化物を含む集石遺構(人頭大の河原石を配石として置いたSI-19(図版21)など)が6基、掘り込みを持ち埋土に炭化物を含まない集石遺構(15cm程の円礫や亜円礫14、5個を敷き詰めるようにして配石とし



図版20 滑川第2遺跡SI-9



図版21 滑川第2遺跡SI-19



第14図 滑川第2遺跡遺構配置図1 (1/1000)

て置いた S I - 17など) が 4 基、掘り込みを持たず炭化物も見られないものが 2 基検出されたが、ほとんどの集石遺構が礫の堆積状態はさほど密ではなく、なかには埋土には多量の炭化物を含むにもかかわらず数個の礫のみを充填している S I - 2 などもあった。その他、掘り込みを持つ集石遺構では、その掘り込み面の周りに数個から数 10 個の礫がまるでこぼれ出たかの様に散在している (S I - 24など) ケースも確認されている。

次に第 4 層中位では A 群 (図版 22) [約 15m<sup>2</sup> の範囲に 10 cm 程の厚さで焼礫が堆積]、B 群 [約 22m<sup>2</sup> の範囲に 10 cm 程の厚さで焼礫が堆積] 2ヶ所の焼礫群が検出され、A 群から 5 基、B 群から 3 基の集石遺構が確認されている。いずれの集石遺構も、焼礫群のなかで焼礫の集積がまばらで土色が黒ずんでいる範囲から検出されており、全てが掘り込みを持ち埋土には多量の炭化物が含まれていた。配石を持つものも A 群に 2 基 B 群に 1 基確認されたが、掘り込み内にはほとんど礫は充填されていなかった。また第 5 層上位においても C 群 [約 22m<sup>2</sup> の範囲に焼礫が集中]、D 群 [約 8 m<sup>2</sup> の範囲に焼礫が集中] 2ヶ所の焼礫群が検出されたが、A・B 両群と比較すると焼礫の堆積に厚みが無く、集積もややまばらな状況であった。集石遺構の検出状況も A・B 両群とは異なり、焼礫群のなかにおいて焼礫の集積が密になる状況で検出されている。C 群から 2 基 D 群から 1 基の集石遺構が検出されているが、いずれも掘り込みを持ち埋土が炭化粒をわずかに含む茶褐色のもので、配石は見られなかった。

また第 5 層最下位からは扁平な宮崎層群の砂岩が 1 m 前後の範囲に集積する S I - 27 (図版 24) が検出されており、使用されている礫はほとんどが赤変してかなり脆い状態のものであった。

#### 第 4 節 土 坑

第 3 層上面では大別して 3 種の土坑が計 13 基検出された。滑川第 1 遺跡でも見られた端部にピットを有するタイプ [S C - 17 (長径 1.0 m × 短径 0.5 m、検出面からの深さ 0.2 m、ピットの深さ 0.8 m、埋土 10 YR4/4 (褐色) シルト質ローム) など 2 基]、概ね橢円形のプランで埋土に多量の第 3 層を含むタイプ [S C - 5 (長径 1.0 m × 短径 0.7 m、検出面からの深さ 0.4 m、埋土 10 YR5/8 (明褐色) シルト質ローム) など 3 基]、埋土に多量の第 2 層を含み方形プランのタイプ [S C - 15 (長径 1.



図版 22 滑川第 2 遺跡 A 群



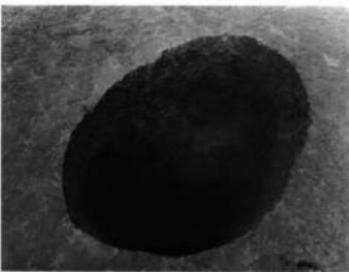
図版 23 滑川第 2 遺跡 SI-29~31



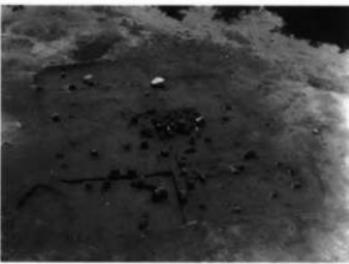
図版 24 滑川第 2 遺跡 SI-27

8m×短径0.7m、検出面からの深さ0.7m、埋土7.5YR4／4（褐色）シルト質ロームなど5基】の3種の土坑であるが、出土遺物はいずれも流れ込みで、構築・使用時期やその用途については不明である。

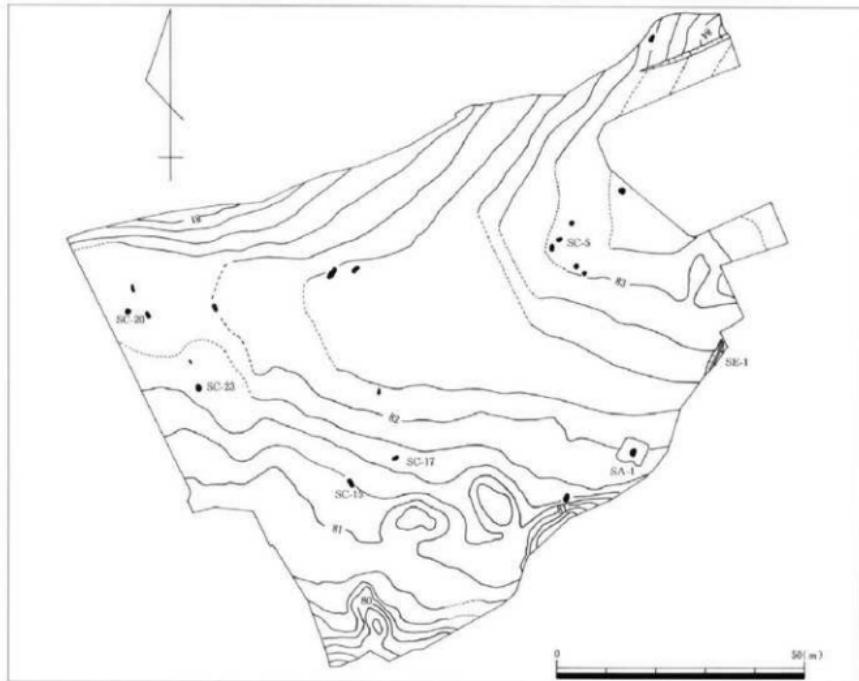
また第3層から第7層上面の間では6基の土坑が検出された。そのうち4基（SC-23（図版25）など）は、滑川第3遺跡で検出された陥し穴状遺構（埋土を放射性炭素年代測定法により分析したところ1万1千年～1万2千年前のものと判明）と、プラン（長楕円形）も埋土【10YR4／2（灰黄褐色）白色・黄色バミスを含む硬質シルト質ローム】も酷似しているため逆茂木痕は確認されていないが陥し穴状遺構ではないかと思われる。また撲糸文系帯ノ神式土器を供伴する土坑が第7層上面で1基検出された。



図版25 滑川第2遺跡SC-23



図版26 滑川第2遺跡SA-1



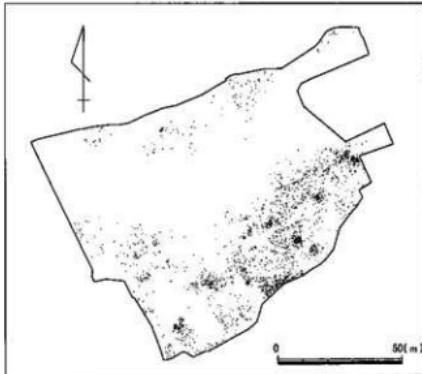
第15図 滑川第2遺跡遺構配置図2 (1/1000)

## 第5節 穫穴式住居

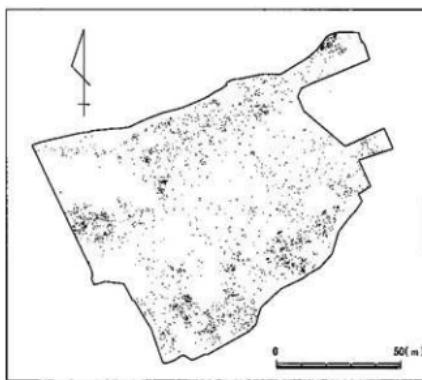
第3層上面では5.2m×5m、検出面からの深さ0.2mの隅丸方形の竪穴式住居が1軒検出された。管玉などの出土遺物はほとんどが流れ込みで（石皿1点は供伴遺物）、柱穴やその他の屋内施設も確認できなかったため、構築・使用時期は不明である。尚、埋土は10YR 5/6（黄褐色）わずかに炭化粒を含む砂質ロームの単一層である。

## 第6節 出土遺物

土器は第4層・第5層から押型文土器、下剥峰式土器、手向山式土器、塞ノ神式土器、平柄式土器、轟1式土器などの縄文時代早期の土器が、第2層からは極少量の曾畠式土器や綾形土器が出土している。押型文土器は稍円と山形の2種類が、塞ノ神式土器は撚糸文系・貝殻文系いずれも出土している。石器は石鏃、石皿、磨石などが、またその他にも石核や剥片などが出土しており、石材は黒曜石（姫島産を含む）、砂岩、頁岩、チャートなどが使用されている。



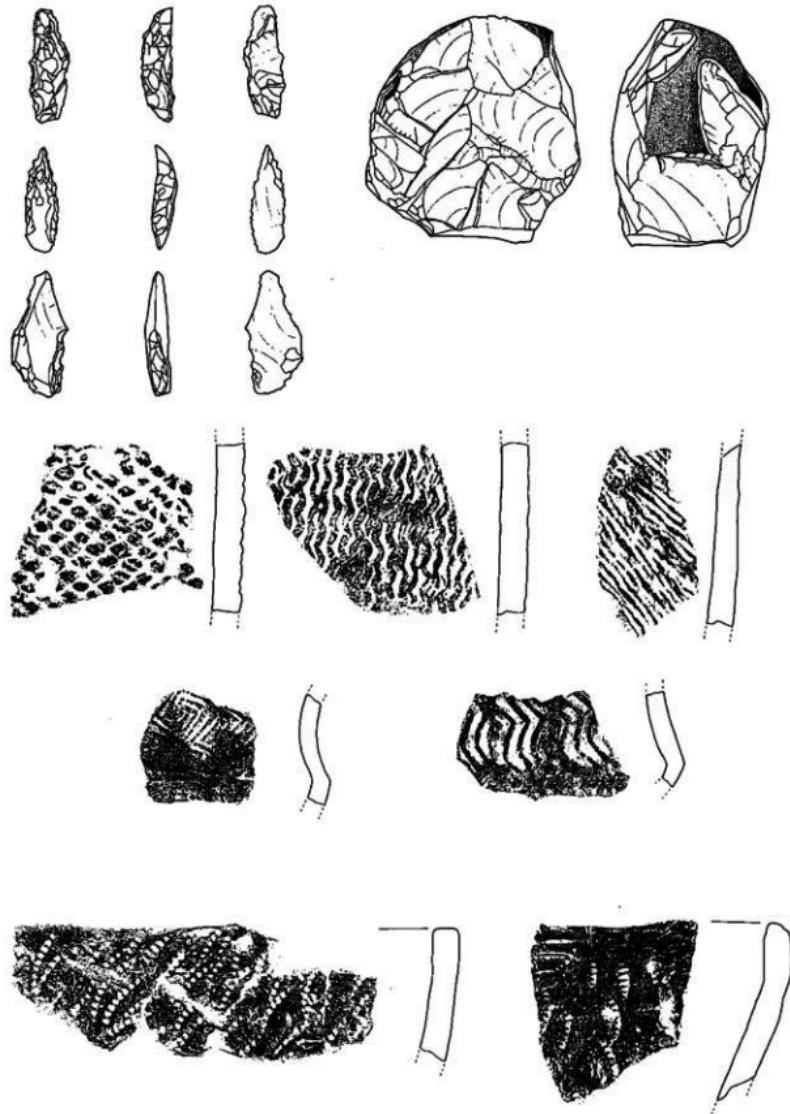
第16図 滑川第2遺跡遺物分布図2 [~縄文時代前期遺物](1/2000)



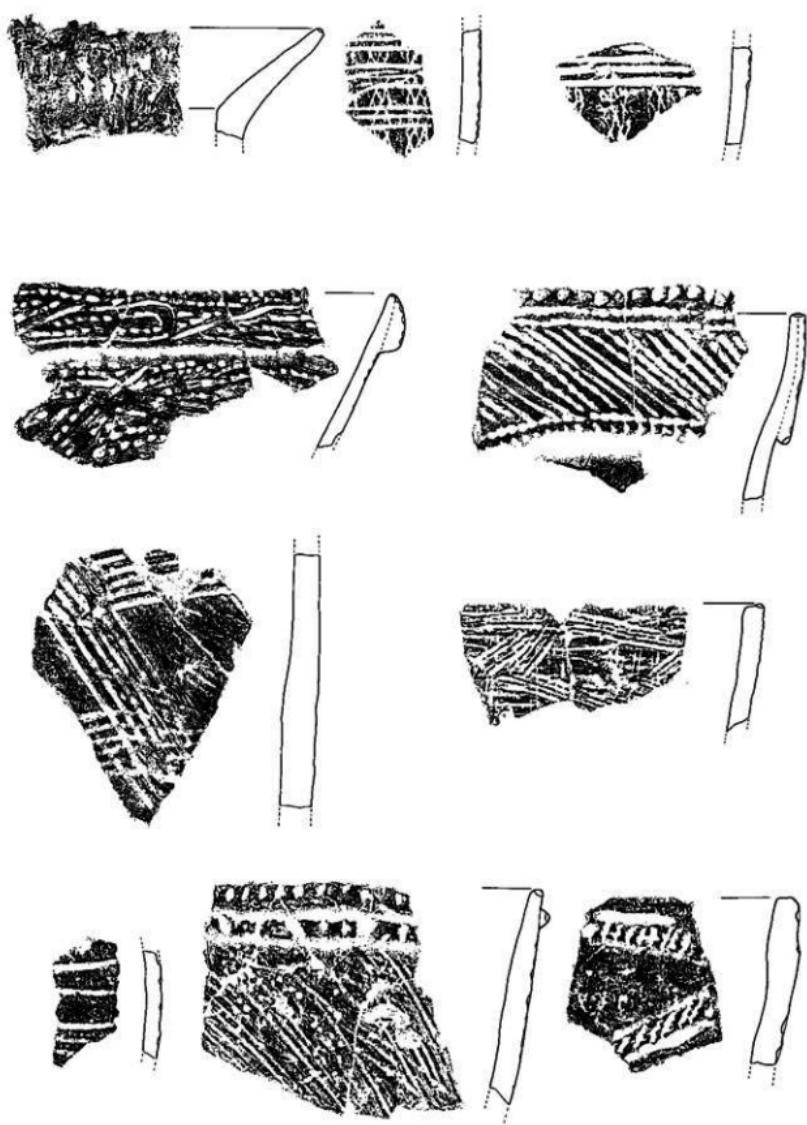
第17図 滑川第2遺跡遺物分布図3 [縄文時代早期遺物](1/2000)

## 第7節 まとめ

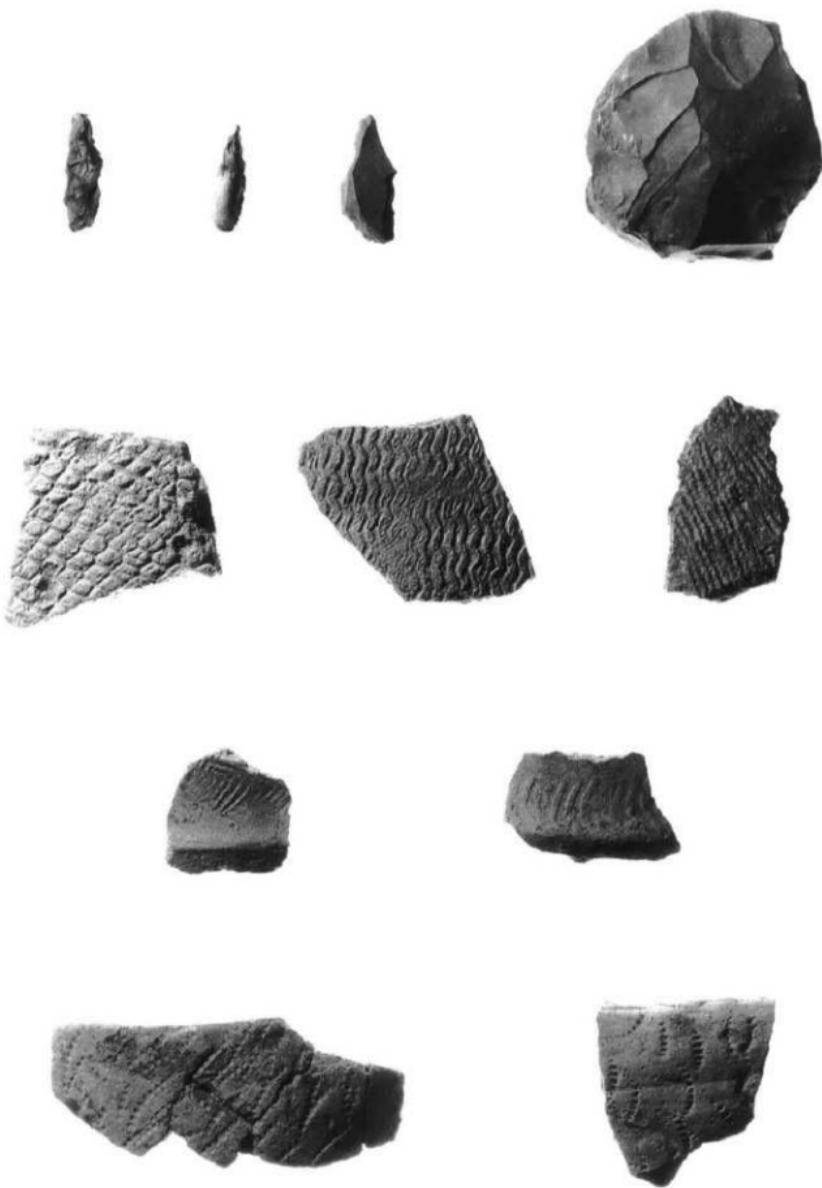
滑川第2遺跡では竪穴式住居や土坑など各時代の遺構や遺物が確認されたが、なかでも縄文時代早期の遺構や遺物は数多く確認された。特に集石遺構については計43基が検出されたが、様々な検出状況やバリエーションに富んだ形態からみて、早期のなかでも幅広い時期にわたる幾つかのタイプの集石遺構が確認できたのではないかと思われる。またそれを裏付けるように押型文土器、下剥峰式土器、手向山式土器、塞ノ神式土器、平柄式土器、轟1式土器と早期の土器が多種出土しており、今後は相互の関連性に注目していきたい。また平成10年度に続き調査区西側の台地の先端部では旧石器時代の遺構や遺物が確認されており、この遺跡が長い間人々の生活の場であったことを物語っている。



第18図 滑川第2遺跡出土遺物実測図1 (1/2)



第19図 滑川第2遺跡出土遺物実測図2 (1/2)



図版27 滑川第2遺跡出土遺物1



図版28 滑川第2遺跡出土遺物2

フリガナ	ヌメリカワダイイチ・ダイニイセキ					
書名	滑川第1・第2遺跡					
副書名	県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査概要報告書					
卷次	第1集					
シリーズ名	清武町文化財調査報告書					
シリーズ番号	第7集					
編集者名	松原一哉・井田篤					
発行機関	清武町教育委員会					
所在地	宮崎県宮崎郡清武町大字船引204番地					
発行年月日	1999年3月					
所在遺跡名	所在地	市町村:遺跡番号	北緯	東経	調査期間	
滑川第1	清武町 大字船引 字滑川	清武町:209 210	31° 52' 29"	131° 22' 09"	98.5.6~99.3.31	
滑川第2			31° 52' 28"	131° 22' 13"	98.5.6~99.3.31	
調査面積	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
9300m <sup>2</sup>	農業関連	集落	旧石器 縄文	土塁、集石遺構 陥し穴状遺構 竪穴式住居	縄文式土器 石器	
9600m <sup>2</sup>						

清武町文化財調査報告書 第7集

滑川第1遺跡 -2-

滑川第2遺跡 -2-

発行年月 1999年3月

編集・発行 清武町教育委員会

印 刷 (株)昭和印刷

